

この話は教材として扱ったことがある。(15年くらい?もっと前かも?) ついこの間のような気がしていたが、本箱を探したが見当たらなかった。心を打つ史実は心に残っているものだと感じた。「年貢を取り立てるだけが庄屋でない。こんな素晴らしい庄屋もおったんや」と話してやった。

治水で「千本松原」「通潤橋」これも童話として昔読んだ。大和川の付け工事もあるがこれは童話や小説のはなっていないかも?? これらもすごいドラマと感動した。

「水神」も久しぶりに感動的な本だった。しかし、小説というより、今まで読んだ、前に挙げた2冊の童話と変わらないと思った。子どもの童話と大人の小説の区分は全く感じなかった。まるで童話を読んでいるような感じだった。



5人の庄屋の農民への温かさが一人の老武士を動かし始まった治水工事。歴史を動かすには温かい心と確かな頭脳が必要だったと改めておもう1冊でした。

行政と地域の願いが重なった大阪のダブル選挙を思い返していた。これが結び付けば大きな力が発揮できたのに・・・。